

「国際協力マルチアクターサミット in 函館」開催

01



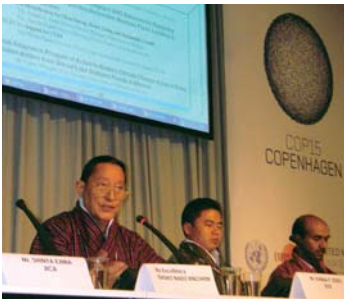
自分たちの経験をもとに、意見交換をする参加者たち

12月17～19日、北海道函館市で「国際協力マルチアクターサミット」が開催されました。このイベントは、北海道と東北地方で国際協力を実践する個人・団体が集まり、地域が持つリソースと国際協力を結び付け、地域活性化にどう還元していくかを考えることを目的としています。「マルチアクター間の連携によって生まれる一歩進んだ国際協力の実践」というテーマのもと、40人の参加者たちは3日間にわたりさまざまな連携のアイデアを議論し合いました。

最終日には、今回のサミットで得られた知見をどのように生かし今後の行動に結び付けていくか、参加者の決意をサミット宣言文として採択。すでにいくつかの連携企画は実現に向けて動き出しています。

「気候変動枠組条約第15回締約国会議」で途上国政府とともにメッセージを発信

02



ブータンのサイドイベントで基調講演を行うフドリンチェン環境副大臣(左)

2009年12月7～18日、デンマークのコペンハーゲンで、「気候変動枠組条約第15回締約国会議(COP15)」が開かれました。

JICAは開催期間中、開発事業における温室効果ガス削減効果の推計ツールや、クリーン開発メカニズム(CDM)促進に関するサイドイベント(セミナー)を開催。また、ブータン、ベトナム、ザンビアの各国政府が、自国で取り組む気候変動対策について、その現状や成果、課題、提案などを発表するセミナーを企画段階から支援しました。セミナーでは、地方電化事業を題材にJICAが提案しているCDMを貧困削減などに活用する取り組みや、後開発途上国におけるCDM事業促進のための制度改善など、各国政府とともにJICAのメッセージを発信することができ、どのセミナーでも活発な議論が展開されました。

04

澤田康幸客員研究員が「円城寺次郎記念賞」受賞

JICA研究所の澤田康幸客員研究員(東京大学大学院准教授)が、日本経済研究センターが主催する「第2回円城寺次郎記念賞」を受賞しました。同賞は、経済理論の分野で実績があり、今後の活躍が期待される45歳以下の若手・中堅エコノミストに贈られるものです。

澤田客員研究員は、ミクロ計量経済学の手法を用いた実証研究などを通じ、開発途上国の貧困問題やODAに関して問題提起を行ってきました。現在は、JICA研究所で「JICA事業の体系的なインパクト分析の手法開発」、「スリランカにおける灌漑インフラの貧困削減効果」などの研究プロジェクトに取り組んでいます。

03

JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト2009「入賞者発表

- 「JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト2009」の受賞者が発表されました。今回のテーマは「行動し地球と私のためにできること」。7万3536点(中学生の部4万9084点、高校生の部2万4452点)もの力作が集まりました。
- 最優秀賞
  - [中学生の部]
    - 立命館宇治中学校1年 河之口みなさん
    - [Keep On Supporting]
    - 北上市立上野中学校2年 朴志海さん
    - [二つの母国]
  - [高校生]
    - 村田町立村田第一中学校3年 大沼圭吾さん
    - 「今、僕にできること」
    - [高校生の部]
    - 聖心女子学院高等科3年 高橋実紗子さん
    - 「心で」
    - Thomas Jefferson High School for Science and Technology 2年 藤生愛さん
    - 「ハンカチの種」
    - 長野県長野高等学校1年 草間由紀子さん
    - 「実践+継続∞(無限大)」